

平成28年度 愛知県中学校(U-13)サッカー選手権大会 名古屋地区予選【審判割り当て】

- ※ 審判をする上で、以下のことに注意してください。
- ・審判を割り当てられているチームで主審（1名）・副審（2名）を担当すること。主審は必ず有資格者が担当すること。
 - ・副審は選手可（ルールに詳しいもの、有資格者が望ましい。準々決勝は選手不可、有資格者のみ）とするが、なるべく指導者等が担当すること。
 - ・主審・副審の割り当ては審判担当チーム同士で事前に話し合って決定しておくこと。
 - ・会場担当チームは第4の審判員を担当するため、会場担当チームと対戦するチームは主審を担当すること。
 - ・主審は審判服を着用すること。（副審もできる限り審判服を着用すること。）

右記の3会場以外		
	第1試合	第2試合
審判	第2試合のチーム	第1試合のチーム

12/17(土)天白学体(A), 12/18(日)高針台(K), 猪高(L)			
	第1試合	第2試合	第3試合
審判	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

☆ 天白学校体育センター（A）、中川学校体育センター（B）、平田学校体育センター（C）は②10:15が第1試合です。試合時間が異なりますので、注意してください。

2017年1月15日（日） 準決勝・決勝 中川学校体育センター(B)

	主 審	第1副審	第2副審	第4の審判員
準決勝① 10:00	今 池	猪 子 石	桜 丘	守 山 東
準決勝② 11:15	東 星	長 良	千 鳥 丘	供 米 田
決 勝 14:30	御 幸 山	南 陽	八 王 子	名 塚

会場使用について（総会資料より）

- ベンチ及びその周辺には、登録した監督・コーチ・選手以外の者（登録外選手や保護者など）が入らないように、チームで徹底してください。
- ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。（会場付近についても同様）
- スパイクなどについて土や泥は、必ずグラウンドで落とし、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除して帰るようにしてください。
- 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- 会場へ問い合わせしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への自家用車の乗り入れには、**指定駐車券(監督用、審判用)**の提示が必要です。
- 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際も、必ず吸い殻の始末をしてください。
- 学校体育センターは**9時以前**に集合しないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしたりしないでください。

審判について（詳細は総会資料をご確認ください。）

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

- 競技規則（ルールブック）をよく読みましょう。
競技規則が大幅に改訂されました。試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。
新しい競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。
 - リスタート
 - キックでプレーを開始・再開する場合は、ボールを（静止後に）明らかに動かす。
 - キックオフはどの方向にボールをけても良い。ただし、キックオフ前に、ハーフウェイラインを越えて相手側コートに立ってはいけません。
 - オフサイド
 - 反則が起きた場所からプレーを再開する。（副審はフラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある。）
 - ペナルティキックとPK方式
 - キックフェイントは最も罰すべき行為である。（警告→相手の間接FK）
 - ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、警告となる。（PK方式中に2度繰り返して退場になる場合もある。）
 - PK方式では、主審のゴイントスにより、キックするゴールを決める。（PK方式前に2度ゴイントスをするようになる。）
 - PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。
 - 競技者の用具
 - 試合中に用具を交換したり、修正したりするためにフィールドを出た後、主審の承認を得れば、インプレー中でもプレーに復帰することが可能である。
- 起きた現象（ファウル）をよく見ましょう。
 - レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう（角度をあわせるために、サイドステップなどを使いましょう。）
 - 感覚的に決めつけてずに、起きた現象（ファウル）をよく見て、急がずに判定しましょう。
- 戦える選手を育てましょう。
 - プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーがんばることができるたくましい選手を育てましょう。
 - 激しくタフなプレーを認め、シャツを引っ張るなどの些細でも悪意あるプレーに厳しく対処しましょう。
正しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。

審判員同士の打合せや意見交換など、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いいたします。